

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会（第43回）

議事録

日 時 令和8年2月20日（金）14:30～16:00

場 所 西の丸会議室

出席者

構成員			
丸山 宏	名城大学名誉教授	座長	
仲 隆裕	京都芸術大学教授	副座長	
オブザーバー			
白根 孝胤	中京大学教授		
野村 勘治	有限会社野村庭園研究所		
平澤 毅	文化庁文化財第二課主任文化財調査官		
原田早季子	愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室 技師		
事務局			
観光文化交流局名古屋城総合事務所			
教育委員会生涯学習部文化財保護課			

議 題 ・二之丸庭園の排水計画について

報 告 ・二之丸庭園の修復整備について
・二之丸庭園の六角型燈籠について

配布資料 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会（第43回）資料

事務局	1 開会 2 あいさつ 本来なら所長よりあいさつを申し上げるところですが、所用により出席が叶っておりませんので、代理であいさつを私のほうからさせていただきます。 本日はご多用の中、庭園部会にご出席いただき誠にありがとうございます。本日の部会の議事は、二之丸庭園の排水計画についてと、六角型燈籠について、ご意見をいただきたいと思います。限られた時間ではありますが、皆様から貴重なご意見をいただきながら進めていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。 3 構成員、事務局、オブザーバーの紹介 4 今回の議事内容 資料の確認をします。A4 が 1 枚で、表に会議次第、裏に出席者名簿になっています。片面 A4 で、座席表です。次に、クリップ留めしている資料で、右上に 43 庭園資料 1 と書いてあるものが、A3 で 4 枚あります。次に、右上 43 庭園資料 2 と書いてあるものが、A3 で 3 枚です。次に、A3 でホッチキス留めされている、右上に参考資料 43 庭園参考 1 と書いてあるものが 3 枚です。最後に、A4 で 43 庭園参考資料ということで、庭園部会における議題の今までの経緯をまとめたものです。 それでは議事に移ります。ここからは、丸山座長にお願いします。丸山座長、よろしくお願いいたします。
	5 議事 ・二之丸庭園の排水計画について
丸山座長	先ほど、現場を案内してもらって、野村さん、ご説明ありがとうございました。 それでは早速ですが、議事の最初、二之丸庭園の排水計画について、事務局よりご説明をお願いします。
事務局	資料 1 をご説明します。資料 1 をご説明した後、参考資料で今回の発掘調査で明らかになった遺構の位置で、今回の排水計画で関連する部分について、担当学芸員からご説明します。 まず、1 ページ目の検討案と書かれた図をご覧ください。前回の部会にて、二之丸庭園の北西隅の排水について、塀沿いに側溝を設置して雨水を集め、石樋の付近に流出する計画であることをご説明しました。検討案の中で、茶色で示した部分が近代の兵舎の遺構です。今年度、この部分の発掘調査を行ったことで、これらの遺構の高さが概ね把握できま

	した。ただし、発掘調査が終わって間もないので、排水について今後の検討の方向性を確認したいと考えています。青ラインのところですが、詳細な高さの精査がまだ終わっていない状況です。今回の議題に関しては、現時点で把握できる高さから排水について、今後の検討の方向性を確認させていただきたいと思います。 1 ページの右側、検討案の概要の表をご覧ください。①横断側溝は、②とした近代遺構と交差するところです。横断側溝の下側の下端の高さが、近代遺構面よりも高くなるように水路の高さを設定しています。④の北側に通す側溝については、陶管の遺構が北側にありましたが、それよりも南側経路とし、図の中央付近にくる演武場の遺構よりも、水路の下側が高くなるように設定しています。 右下の補助排水案をご覧ください。④の部分の側溝が水深 5 c m程度とかなり浅くなることから、十分な排水機能が確保できなくなるのではないかと考え、南蛮練堀と側溝の間に暗渠排水管を 1 本入れて、補助的に排水機能を補完する案を検討することを考えています。まだ、迎涼閣の南東側が未発掘であり、課題が多いですが、発掘調査を行うタイミングで再検討したいと考えています。 2 ページ目の流末部の排水横断図をご覧ください。横断側溝の構造になります。前のページで横断側溝を①としていたのが、この横断側溝と、その先の流末部。その概略の構造図を示しています。薄い青色で着色しているところは、側溝の側壁の部分になります。先ほどのご説明で、中央付近に高さ 13.07 に近代遺構があるので、この上部に横断させる案を、今書いています。 3 ページ目が流末部、石樋の部分の構造図になります。前回の部会、石垣天端の上部から排水する案で、一旦は検討を行うようにというご意見がありました。前回までに示した案が、一番下の石樋を新設する案です。この案は、石樋が石垣の上部にくることから、既存の下石樋のように、石垣の中で固定できないので、ここが不安定な構造になると考えています。そういった構造ではなくて、塩化ビニルのパイプで石樋の上に突き出して高いところから流す案ではなくて、石樋に這わせたパイプから排水する案が良いのではないかと、今のところ考えています。 表の一番上に示していますが、排水した先が空堀になるので、石樋から排水された後、空堀から水堀までの排水処理を、今後検討していかなければいけないと考えています。 議題 1 の説明は以上になります。それでは、今年度調査を行った排水計画関連について、参考資料について担当学芸員よりご説明します。
事務局	先ほどの説明に追加して、排水施設予定位置の地下遺構の状況についてご説明します。今年度の発掘調査、第 13 次調査の成果の中から排水に関連するところを抜粋して今回お話し、調査の正式な報告はまた改めて行いたいと思っています。 1 ページの左側の 1. 調査区設定の主な目的と 2. 調査区については、発掘調査の実施前にここでお話しした内容がほとんどそのままになっていますが、面積が 400 m²発掘する予定でしたが、1 ページ目の右側の図 2 の調査区オルソ画像を見てもらうと何となくわかると思いますが。樹木が多くて、元々予定していたところから樹木を避けて発掘した結果、299 m²になっています。壁面も樹木の根隠れの影響があって、うまく追えないところもあったんですが、うまく追えたところからお話した

	と思います。 この調査の目的が、庭園の北西角の確認と、埋門北側で確認できる石樋につながる溝の確認、迎涼閣の基礎の確認、南蛮練塀の基礎の確認です。たいたいその目的は達成できました。庭園の北西角、石樋につながる溝、迎涼閣の基礎、南蛮練塀の基礎も確認できました。それに加えて陸軍の演武場の遺構も確認しました。演武場と演武場を増設した痕跡、それに先行する近代遺構、演武場に伴う排水施設なども確認しています。2 ページ目に、図 3 の演武場の時代である近代遺構摸式平面図と、右側に近世遺構摸式平面図を付けています。調査を上からご説明すると、調査区自体で標高約 13.0m の高さから SB5、SB6 が演武場になりますが、それが確認されました。SB5、SB6 が機能していた時期の地表面も確認しました。地表面と演武場の広がり、図 3 の緑色で着色しているところで示しています。演武場の東側に SB6、土管 3、SB7、SD4 などいろいろ書いてありますが、これらが SB8、SB7、SD4、土管 3 の順番でずっと切り合っており、その中で一番新しいのが演武場にあたる SB5、SB6 と、SB5、SB6 の排水を担っていたと考えられる土管 1 になります。この調査は一旦 SB5、SB6、土管 1 の時期で止めています。図 3 の緑色に着色したところが、止めた遺構面になります。ここが標高 13m から 13.1m でだいたい揃っており、礎石束石、タタキがよく遺っている箇所は一番高いところで 13.13m の地点になっています。それは少し小さいですが、図 3 にドットで落としています。SB5 の南西に比較的高く遺構が遺っていて、13.13m になっています。現地表が 13.45m から 13.55m くらいになりますので、だいたい 30cm 下に掘ると遺構がでてきてしまう状況になっています。 続いて色が抜けているところは、近代遺構がなかったところで、掘削を掘り進めた結果、図 4 の近世遺構が検出できています。図 3 の緑色に着色していないところからも近世遺構が出てきているのが、図 4 を見てもらえばわかると思います。御城御庭絵図などのよく描かれている迎涼閣、土蔵、御文庫も今回改めて検出することができました。それに加えて SS13 と書きましたが、礎石が転々と出てきています。これを過去の調査成果と絵図との成果と合わせて結んだところを、庭園北東角辺りをなんとなく予想することができました。 図 4 の西側の近世遺構面ですが、石樋に続く溝として SD11 と SD12 を確認しています。どちらも東西方向に延びる石組の溝で、SD11 に関しては側壁が板状に加工された花崗岩を組み合わせて構築しています。3 ページ目に写真を載せています。一番左の写真の外側に板状の石が組み合わさっているところが SD11 になります。板状に加工された花崗岩が少なくとも 2 段積まれており、なかなか深く 2 段目があり、底部は確認できませんでした。東側は、SD12 を一部掘り込んではい入りますが、SD12 と既存の位置が一致するため、SD12 と SD11 は機能していた時期が重複すると考えています。西の端が SK10 の土坑に掘り込まれており、石樋と SD11 が土坑によって分断されているので、直接の繋がりは確認できませんでした。ただ、SK10 が石樋を廃絶するときに造られた遺構と考えています。続いて SD12 は 3 段積みの石積みになっており、1 段目が 50cm×30cm 程度の切石の花崗岩になっています。2 段目と 3 段目はやや小振りな砂岩の割石、間知石を志向していると思いますが、間知石になり切れていないようなもので構成されていました。トレンチ内で確認した程度なので、どのくらい大きいのかは確認できませんでしたが、こ
--	---

	こから 3m 東に設定したトレンチで確認できなかったのも、真東に延びていくのではなくて、調査区の途中で北か南に折れている可能性があります。石樋は、石垣から突き出ているだいたい 100 cm×50 cm の切石になっています。切石の側端に溝が掘られていたので、側壁の存在が想定できます。石垣面に石樋と同程度の石材が確認でき、開口部が閉塞していると考えられます。石樋の底部が SD11 と 12 の底部よりも高い位置にあるので、SD11 と 12 が機能していた時期と石樋が機能していた時期は異なるのではないかと考えています。 図 6 と図 7 は、排水の検討の参考になるかと思い、東西方向と南北方向のエレベーションを作っています。南北方向が図 6 になり、標高 13m 付近で 26 層という土が薄く堆積しています。これが近代遺構の検出面になり、標高 13 から 13.05 あたりで水平に堆積しています。その下に、2 層下にある 72 層という水平に薄く堆積している土があります。これが、石垣の天端にくっついており、近世の地表と考えています。ここより下から近代の遺物は出ていません。東西方向は図 7 に示しています。近世と近代を色で分けており、ピンク色のラインが近代の遺構面、水色のラインが近世の遺構面になっています。 発掘調査の評価は以上になります。
丸山座長	1 ページに南蛮練塀とあるけれど、こちらの文字は間違いですか。南蛮練塀は、石樋のところにはないはずですか。ここは築地塀のはずですか。
事務局	GL の下に、南蛮練塀ではないかというものを検出しています。グラウンドレベルの下に、土の中にタタキの基礎があります。
丸山座長	そのところにあるのですか。
事務局	あります。それが、石樋のところだけ抜けています。
丸山座長	そうすると、南蛮練塀と今まで我々が言っていたものは、南蛮練塀の範囲が上だという理解ですか。
事務局	そういうことになります。北側だけになります。
丸山座長	今後、どういうふうにしますか。南蛮練塀という名称を使うのか。絵図だと築地塀になるので。整理してください。どこまで続いているのかわからないです。
事務局	案内板では、御築地（南蛮練塀）にした気がします。金城温古録に書かれている御築地は、二之丸北の辺りだけで、迎涼閣よりも南側は御築地とは書かれていないです。いわゆる南蛮練塀と同じ素材で同じ方法で塀を造っているの、名前は考えないといけないです。今回は練塀として考えてもらえればと思います。
丸山座長	そうですね、まずはその辺注意して変えてもらって。 ここは、迎涼閣周辺の排水計画ですが、二之丸庭園全体の排水計画はどうなっていますか。まだ示されていないですね。

事務局	前回の部会で説明済みです、
平澤オブザーバー	北面と西面が書いてあって、東は書いてなかったでしたっけ。
事務局	これは二之丸庭園です。
丸山座長	全体の排水計画です。
事務局	東側に関しては、距離があり、排水ができています。南側に側溝があった場所です。一番ネックになっているのは、北西側です。二之丸庭園、二之丸広場と今言っていますが、この辺りから北側が低くなっていますので、北側に流れていくのが現状です。 ここに、主な排水施設がないことが、南蛮練堀に悪い影響を与えていると考えています。特にここが、排水計画上でネックになるので、ここが解決してからと考えています。
丸山座長	これは現況ですよ。近世の状況に戻したときに、どこまで戻せるのかということが重要です。近世の整地面より深くはできないが、それよりいくらか保護層をつくりながら全体を考えないといけないです。 例えば、二之丸庭園の中で二子山があります。一度発掘してもらって、かなり深く、1m以上掘りました。そういうものも含めて全体の排水がどうなるのか考えないといけないです。排水計画と書いてあるが、これはごく一部で、この部分だけの排水計画です。それに関連して、どこまで掘り下げるのかという話が、全然ないです。 ここは1mくらい、軍が埋め立てています。今発掘で出てきて、ここを基準に二之丸庭園全体の排水を考えるのであれば、全部検討しないといけないです。ここはもちろん、今回のところで出してもらっていいです。ほかのところはどうなるのか。 つまり、南蛮練堀をどう表現するのか。南蛮練堀を全部発掘して、裾のほうは何もなくて、土坡でされているという話が、前に出てきたと思います。だから、ここは二之丸庭園全体の排水計画の中の一部ですね。
事務局	そうですね。
丸山座長	この一部が、これでいけるのかどうかということですね。掘り下げたときに、近世の全体をどうするのだという、一番大きな話が残っています。
平澤オブザーバー	北側は、東半分は、東側で北に通じて排出できるのです。西側のところは、具体的に北勾配で来ているから、北側で拾ってやるしかない。南蛮練堀があるところは西側に出して、北西部分のエリアの排水だけを考えれば、ほかのところは上手くいくというのが前提だと思います。
丸山座長	近代に埋め立てられたところを下げるわけです。
平澤オブザーバー	ここはね。

丸山座長	それも全体の中で考えないと、二之丸庭園の中の、先ほど二子山のところを一度発掘してもらって、ここの排水はできないと。無理だと。無理だけれど、自然に水がだんだん透過していつているということもあります。 心配しているのは、近世の遺構をある程度覆土して、ここの二之丸全体の排水がどうなるのか。それは、現在使われている排水施設も含めてです。それは上に出ているから、下げないといけません。
平澤オブザーバー	下げなくてもいけるのではないのですか。
丸山座長	軽く園路を上げていくでしょう。
事務局	整備計画上では、確かに北東側から 0.4m 程度切り下げる計画になっています。ただ、今回発掘調査で確認された遺構を見てみると、非常に近代の遺構が高い位置にあります。どれくらいかというと、ほとんど GL から 30 c m、40 c m 程度です。当然、まだ精査が終わっていないので、今後精査が必要などころではあります。この時点で 40 c m 下げるとは、なかなか難しいのではないかとというのが我々の認識です。
丸山座長	それもわかりますが、ここは一部、非常に精緻にやってもらって、ここの矛盾をやってもらって。今後、ここの手法を取り上げてもらっていますが、二之丸全体の、要するに軍が入って埋め立てたところをどうするのだ、という話がまだされていない。
事務局	もともと以前から言っているのが、北東側と北西側（箇所指して）くらいしか名古屋城としては今のところ排水可能なところがないです北側の面に関しては、そういう計画です。まず末端のところは排水できるか、というのが決まるとないと、それに対して上のほうの計画が立てられないです。まずこれが決まれば、これに基づいて上のほうの高さ関係をやって、先生の言われるご心配などころはありますが、そういうところも含めて、二子山のところは全然持っていけられないから、ここは池しかない、ということを検討していくことになると思います。 ですので、ここの排水をどうしていくのかを決めていただかないと、先が進めません。
平澤オブザーバー	そうではなくて。例えば、北面のところ受ける、水色で書いてある線があります。それは、東側のところは東側に流せばいいわけです。
事務局	東側のほうはですね。
平澤オブザーバー	そっちはいいです。問題は、そこから西側に持っていくしかないから、ということですね。 南側は南の排水を受けて、東側に流すのだから、北東の部分の排水は、二之丸庭園の北東の部分のエリアの水を受けて流せばいいわけですね。
事務局	ここの（区域を指して）ところはですね。

平澤オブザーバー	そうです。だから、全体の中ではそこで、一応、検討としては縁は切れているわけです。 北西の部分の排水だけを考えれば、あとはそれに合わせてなんとか繋がられるというか。そもそも北面の水の、その東側のところは西側に来ないです。来ないで、東側にいくわけですから。問題は、一番北側に来て、そこから西側の水を南蛮練堀のところにいかせないで西側に排水したい、ということだけを検討すればいいのではないかと思います。
事務局	排水するにあたっては、演武場の基礎が出てきているので、今回ご説明しているようになるということです。
平澤オブザーバー	皿型のものは南に通して、補足的に暗渠管を少し上のところに入れて、そこはあとで合流させて排出するということですね。 丸山部会長が言われているように、全体はだいたい区分はできているので、北西のL字型のところで囲まれるエリアの排水を、この遺構の関係と合わせて西側に抜けるのでよければ、具体的な設計検討に入りますよ、っていうのが今日の議題です。
丸山座長	そのとおりです。私は全体の、今現況はこうなっているが、今流している施設は、掘り下げてくると出てくるわけです。そのこの辺りの処理を、どうするのかということです。ちょうど東側の、全体の、流していますが、現況どういう管がどう繋がっているのかよくわかりません。
仲副座長	前回の値は。
丸山座長	ここの水色のところですね。
仲副座長	水色のうちの低流域のところ、西に行くのですか。
丸山座長	西と東にいきます。東のほうも、このままではできないです。今の現況より下げるとしたら。
平澤オブザーバー	下げない。下げなくて、うまくいっているわけですから。
丸山座長	現況の雨水排水は、それでできているけれども、ここ全体のデザインの中で内側に、北堀かなにかわからないですが、築地堀ができますよね。そういうものとの関係が、次は東でも起こってくる。ただ単に流れたらいいだけではなくて、その地盤をどこまで下げられるのか。下げないのであれば、これでいいのかもしれないです。
事務局	結局、今回の発掘調査でも、近代の遺構として演武場などが出てきました。その面がぎりぎりなので、この辺を大規模に無くしてしまうのは、さすがに名古屋城としても難しいと思っています。正直、現在の地盤からそれほど下げられないということです。
平澤オブザーバー	結局、全体的に現在の地盤をベースに考えるしかないもので、東側のところは、今機能しているものをそのまま使えば済むのですよね。

	問題が残っているのは、北西部分の集水を、北西部分のところでどうやって受けるかっていうことです。それだけが残っているかたちにして、問題ないと思います。
丸山座長	わかりました。 言いたかったのは、内側の二之丸庭園を囲う築地塀か板塀かわからないですが、それは将来的には復元していくわけです。そのときに齟齬というか、今現在の排水計画、排水路で、地盤を掘り下げることが考えないということですね。
平澤オブザーバー	考えないです。もともと従前から、比較的北側は江戸時代のレアな状態が残っているのではないかとということで、初期に発掘して90cmくらい下に江戸の遺構面があるとわかりました。江戸時代の高さ関係も含めて整備することは、今のものを全部変えるっていうことになります。 先ほど現場で見てきたところは、陸軍の兵舎の跡に、大学の会館で使っていた基礎が高く遺っているから、あそこは高くならざるを得ないわけです。 そうすると、部会長が言われている塀を後に整備するとしても、ほぼ今の現況のレベルの上で再現するしか、選択がないです。 今の排水のものは、将来整備するときに下げる検討しないといけないのかという課題は、一応やらないということになります。
丸山座長	ということは、南蛮練塀はほとんど現況くらいで表示するのか、どうするのか考えないといけないですね。
平澤オブザーバー	北側の、二之丸のかぎのところはそうですね。
丸山座長	わかりました。お金のこともありますので、できないものはできないという話です。 新たに南蛮練塀と書かれているところは、南はずっと続くのですか。わからない。
事務局	埋門までだと、観察したり、古写真見たり、では考えています。そこから南はまったく発掘していないので、出てくる可能性はあります。
丸山座長	ここで発掘して、記録が新たに出てくるとおもしろい。 そうすると、南蛮練塀の表現をどうするのかですね。あんまり掘り下げられないとすると考えないといけないです。
平澤オブザーバー	西側の面はですね。
丸山座長	西側です。
平澤オブザーバー	西側の南北筋の南蛮練塀の表現をどうするのかは、また別ですけども。いずれにしても、遺っている遺構自体は地盤面の下ですね。
事務局	そうですね。2、30cm下に基礎があります。

平澤オブザーバー	北側の東西のものは、現物が上に出ているので、そういうものの保存と表現をどうするのかというのはあります。こっちは、埋まってしまっています。
丸山座長	西側はそんなに手を加える必要はないと思っています。南蛮練塀をどう表現して、展示に耐えられるようなことをするのか。迎涼閣は礎石が出ていて、平面表示みたいなものやっっていくのかとか。その中で、南蛮練塀をどう表現するのか。そういうことが考えられます。 私は掘り下げてやったらカッコいいなと思いますが、お金の話もあるし、しょうがないですね。 ほかに、ご質問があればお願いします。
事務局	市としては、2 ページにある図の排水計画でよろしいですか、ということを確認させていただきたいです。
丸山座長	こういう方法でやって、発掘というか、実際に事業化する中で変わってくると思います。今現在では、決められないところもあります。 3 ページの、石樋まで塩ビの管で引っ張っていくことは、可能ですか。
平澤オブザーバー	実際は上に載せる感じですよ。乗せて、下の部分は保存ということに問題はないと考えているのですか。
事務局	石樋自体ですか。
平澤オブザーバー	そうです。石樋と塩ビ管の間に何かを挟むのか、それとも塩ビ管をそのまま載せるのか。塩ビ管をそのまま載せたときに、設置面のところに何かいろいろ溜まってくると思います。それ自体が、石樋の保存にはたいして影響がないということですか。
事務局	原案では、そのまま載せていますが、ちょっと問題です、
平澤オブザーバー	わかりません。問題があるのか、ないのか、もわかりませんね。
丸山座長	手前の泥溜めで、それは解決するのではないですか。
平澤オブザーバー	私が言っているのは、塩ビ管が外側にあって、それをそのまま乗つけたときに、間にいろいろなものが溜まっていくのではないかと。そういうのが、石樋そのものに悪さをするのか、しないのかということです。
事務局	例えば、落ち葉などが引っかかったりして、美観上が良くない。
平澤オブザーバー	美観上もあるし、わからないが材質的なこともあるかもしれないし、よくわかりません。 塩ビ管が接することで、そこにいろいろなものが集積する環境が新たに作られてしまいます。今は、完全にさらされているので、雨が降れば流れます。しかし上に載せたときにもものが集積する環境ができてしまい下の石樋そのものの石材に何か影響があるのか、ないのか、ということ

	は一応念頭に置いておいたほうがいいかなと思います。
事務局	そうですね。そのへん、言葉は悪いですが、軽く考えすぎていました。
平澤オブザーバー	本丸の、天守のところもそうですが、現代的な施設のために、石垣に管を沿わせている部分があるじゃないですか。ああいう感じで、そこにそれがあっても別に問題ないという考えなのかな、というところはあるかと思います。
仲副座長	それがC案ですか。
平澤オブザーバー	A案、一番上の案です。
仲副座長	一番上ね。
平澤オブザーバー	そのまま塩ビ管が外にでてくるところって、多分塩ビ管の口は、石樋より1寸か、出すのだと思います。そのまま載せるだけでいいのか。
仲副座長	石樋に載せるのですね。
丸山座長	載せるだけです。石樋の先まではいかないです。C案で。
事務局	多少、1寸くらい
平澤オブザーバー	言っているのは、塩ビ管が上に乗っかるわけです。そこに、ものが溜まる環境を作るので、石樋を何かカバーして、その上に載せたほうがいいかもしれないなっていうことを、言っています。
仲副座長	瓦か何かを置いてとか。何かシートをいれるとかね。
平澤オブザーバー	わからないですが、瓦とか、シートかを入れるとか。
仲副座長	直接石の上に載せないということですね。
平澤オブザーバー	凹みのところにもものが溜まっていく環境と、石樋と縁切りしたほうがいいのかということなんです。 それか、こまめに掃除をする。
事務局	位置的に難しいです。
平澤オブザーバー	難しいよね。
丸山座長	長い簞でやれば、できます。
平澤オブザーバー	落ちてしまいます。

丸山座長	下に落としたらいいです。
平澤オブザーバー	そうではなくて、掃除している人が落ちてしまいます。
丸山座長	そのようなことはないです。高知城だと流しているからね。私は平澤さんみたいに心配していません。
平澤オブザーバー	可能性があるのか、ないのかもわからないので、そのところは一応検討してもらったほうがいいと思います。
丸山座長	一度実験的に、ここがそういうことができるのか、流してみないと仕方がないです。 むしろ手前の泥溜めが、水深が浅すぎると思います。
事務局	泥溜めにはなっていません。
平澤オブザーバー	ただの枦です。
丸山座長	ただの枦。
事務局	ただの枦です。中継枦です。
平澤オブザーバー	流れてくる水の泥がどうだとかというのは、管で出せばそのまま出ていきます。私が言っているのは、外の環境で、石樋があつて丸い管が乗っかってきたときに、ここに隙間ができます。
事務局	このような感じで、ここに乗っかる場合がある。
平澤オブザーバー	そこに、いろいろものが入って溜まるのではないかと、ということです。溜まったところと溜まっていないところで環境の差ができるので、石樋全体の中で風化の度合いが変わってきて、何か悪い影響があるかなって思います。
丸山座長	集水枦で、ネットなどそういうもので。
平澤オブザーバー	今言っているのは、ここの水周りです。ここの、外側の面のことを言っています。
丸山座長	まずはここで。
平澤オブザーバー	この中の水はどうでもいいです。
丸山座長	流れますから。
平澤オブザーバー	ここの外身、板状の樋があつて、ここに丸い管がくるわけですから。丸いカーブのところに、いっぱいものが溜まってきます。

事務局	こういうことですよ。
平澤オブザーバー	そうです。そこ。
事務局	管が丸いからここが溜まるよってということですよ。
平澤オブザーバー	そうやって接したときに、そこに扱いにくい部分ができることが、どうなのかっていう話です。
事務局	さらに石樋は縁がないです。石樋に縁はないですから。両側に壁はないですから。
平澤オブザーバー	石樋のところ、凹んで加工してあります。凹んで加工してあるから、そこにもものが溜まります。
丸山座長	それは、掃除してもらわないとしょうがないです。あんまりごちゃごちゃ考えてもできません。
平澤オブザーバー	一応、そういうことがあるのか、ないのか、ということは確認してもらって。
丸山座長	年に1回くらいは掃除をしてもらわないと困ります。
平澤オブザーバー	掃除の仕方も含めて、検討してもらえれば。
丸山座長	掃除はやっていないです。
仲副座長	基本的には、一番上の案にするけれども、今のようなことも懸念されるので、実施設計のときは管の形や、管自体もむき出しよりはカバーをすとか。あるいは色を付けるとかあると思います。それは設計のほうで検討してもらって、次回提案してもらったらいかがですか。 現地で見たときに、この石樋に水を流すのは、やらないことにしたのですよね。
平澤オブザーバー	以前に言っていたのは一番下の案みたいなものです。
仲副座長	そうでしたね。
平澤オブザーバー	今回事務局が出したのは、そうするとまた雨だれのところがあたるのが嫌だから、そのまま沿わせてしまって、絵では同じ寸法になっているけれど、1寸くらい塩ビ管を出せば、たれるのもあるかもしれないが、基本的には水が石樋に触れずに出せる案だと思います。
事務局	先生が言われているのは、多分真ん中の案だと、今ある石樋に水を流す案です。これをしようと思うと、石垣面の石を発掘調査もして、石垣面の石も動かしてということになるので、現状では現実的ではないと思っています。

平澤オブザーバー	一番下の案でも、距離があるから風に吹かれて結局石樋にあたったりすることはあるかもしれないです。 2つこうやって飛び出るよりは、今の石樋にピッと沿わせたほうがいいのではないかとということです。
事務局	目立つところも少ないと思います。
仲副座長	一番上の案で、いいのではないですか。
平澤オブザーバー	茶色い感じの塩ビ管にしてもらえれば、いいのではないですか。
丸山座長	それは、これから実施設計でやってもらえばいいです。これは年に1回きちんと掃除すればいいので、あんまり心配しなくてもいいです。
平澤オブザーバー	そうですね。
丸山座長	それは、そうです。
平澤オブザーバー	管理というか、掃除の仕方である程度、やれるとは思いますが。さっき言ったみたいに、上からこうやるから、掃除する人の転落リスクもあると思います。結構距離があります。 細い、長いのでやるといっても、やっているうちに力が入って落ちてしまうこともあると思います。
丸山座長	そこまで、我々は考えなくてもいいと思います。
事務局	一応今回、掃除してこの状態になっています。掃除は命綱を付けて行いました。
平澤オブザーバー	一番上の案にすると、上に塩ビ管が通っているわけです。さっき言った赤い部分の掃除をするには、上に塩ビ管が乗っかっていたりすると、取り切れないと思います。そのときにそれで、石樋そのものに変質が生じるのか生じないのか、というのは一応説明できたほうがいいと思います。 場合によっては、排水してくる水の重みとの関係もありますが、ちょっと浮かせておく手もあります。浮かせるには、先端が長いから、何か先端部分を支えてあげないといけないです。
事務局)	そういうことも含めて検討します。
平澤オブザーバー	実施上ね。先端部分だけ外せるようにして、外してそこをジャーって掃除してまたはめるということもあり得ます。 今の掃除は、割と簡単にできた感じですか。
事務局	石樋に下りて掃除しました。
丸山座長	はしごで下りたのですか。

事務局	ロープ付けて、1mくらいなので。
平澤オブザーバー	それは作業上、リスクはあるのですか。
事務局	安全衛生上はあります。
丸山座長	そのようなことは心配しなくても大丈夫です。
平澤オブザーバー	そこは肝心なところだと思います。
事務局	何か起きた時には重要なことです。
丸山座長	それだったら、石垣の樹木を切ってほしいです。 一応、これでいいということで次の段階、実施設計のほうへ。業者さん、最近排水が得意だから。
平澤オブザーバー	得意って、わずか、ほかに1例やっているという話ですよ。
丸山座長	あっちと比べたら、このようなこと屁でもないから、簡単です。
事務局	先ほど石垣を見ていたら、上から下まで銅の管で這わせている景観を見ていたので、もしかすると、
平澤オブザーバー	あれは石垣面が、ほぼ下に向いているからいいですが、ここは、石樋が受けているから。
事務局	いっそのこと受けずに横に這わせていく方法も一つあります。今見ていて思いました。ただ、雨水なので、相当雨水の力が強いので、塩ビ管に銅管で保護するとか。ということだったら、周りの石垣にも景観を見ているとあるので、そうするというのもあると思って観察していました。
平澤オブザーバー	石樋をよける。
事務局	というのもあると、先ほど見て、ふと思いました。
丸山座長	このレベルでそれは大げさではないですか。かえって、そういうものは銅でやっても目立ちすぎて、あれはなんだということになります。
事務局	本丸のところに3本くらい銅の管が上から下まで。通っています。
平澤オブザーバー	水ではなくて、電気の管が通っていますね。
事務局	大きさは、多分ちょっと細いと思います。
事務局	天守台のところは、江戸時代からのものをきちんと復元していくものなので、まったく新しいものと話は変わってきます。

丸山座長	そうしたら一応、平澤主任調査官が危険性をかなり気にされていますが。
平澤オブザーバー	短期間ならまったく問題ないと思いますが、設置したらずっとそのままになるので、10年、20年経ってよけてみたら大変なことになっていた、みたいなことになったら嫌だなと思っただけの話です。
丸山座長	10年、20年経ったら、もう1回やり直したらいいです。
平澤オブザーバー	知りません。
丸山座長	そうしたら、最初のほうはこれで終わらせてもらいます。次に六角型燈籠について、ご説明をお願いします。
	(2) 二之丸庭園の六角型燈籠について
事務局	資料2をお願いします。二之丸庭園の六角型燈籠についてです。1ページ目の図2-1の絵図をご覧ください。余芳周辺に3つ、六角型燈籠があります。余芳の北側と、余芳の東側、そして余芳の南側になります。絵図を見ると、余芳の南側と北側がかなり大きく描かれており、余芳の東側がそれよりもやや小さく描かれています。前回の部会等で少しお示しましたが、余芳の北側と南側のものは、二之丸庭園全体の六角型燈籠の中でも、やや大きい部類に入ります。余芳の東側のものが、一般的なものです。典型的なものが6尺程度であると想定しました。例えば、兼六園の六角型燈籠とか、業者さんの古材を見てみましても、かなり6尺のことが多いです。それよりも大きいものが7尺程度で、小さいものが5尺程度となっています。 2ページ目の(3)が、現存する名古屋城内の六角型燈籠です。猿面茶席のものは、一つは6尺で、もう一つは5尺程度になります。六角型燈籠は、今回検討しているのは、寄付されたもので2基あります。一番人目に触れやすい南側と東側を寄付燈籠とし、一番北側は古材を検討したいと考えています。(4)が業者さんの古材の事例になります。今後、これを選定していく予定です 3ページは、六角型燈籠の2、3です。下の図が、図2-9、10が寄付されて今城内にある2つの燈籠です。一つは、天祥院と書かれており、天祥院は9代藩主宗睦の法名であり、名古屋城と繋がりが深いことがわかります。同じく六角型燈籠-3については、泰心院と書かれたものがあり、泰心院が3代藩主綱誠の法名になります。両方とも名古屋城とゆかりがあるということです。燈籠の2番と3番について、寄付燈籠を設置したいと考えています。燈籠の1に関しては、古材の選定を進めて、先生方にご意見を伺いたいと考えています。 ご説明は以上です。
丸山座長	ご意見等をお願いします。 これは、野村さんに聞いたらいいいです。前石が全然ないです。燈籠の前に置いている前石が、図面にはないです。

仲副座長	絵図にもないです。ああ、3はありますか。
丸山座長	3はある？
仲副座長	3はありますね。2もどうか。
丸山座長	あるんじゃない。
仲副座長	1と3はありますね。2は、反対側かな。違うかな。
丸山座長	切れているから。
仲副座長	3は、今言われたように燈籠を入れたときに石を据えないと。それに乗って、火袋に火を入れるので、ないといけません。 3、絵図にはあります。
丸山座長	基本、全部あります。 由来のある燈籠をもらっているんで、それを使うということですね。 その辺が重要で、今後いいものは、安いのはまとめて放り込んだらいい。 いいものはこういうものにに使わせてもらうという、そういう発信をしていけるといいですね。 ほか、いかがですか。
仲副座長	これは、名古屋城内に今あるものを中心に、この方針でこれから選ぶということですか。
事務局	燈籠の1番は、これから選んでいきます。古材です。
仲副座長	いただいたもので2と3は、もう決まっているということですね。
事務局	2と3はいただいたものです。
仲副座長	1をどれにするのか、ということですか。 これは、今年度施工してしまうのですか。
事務局	しないです。
平澤オブザーバー	猿面茶席の前にある、2つの燈籠を移しても大丈夫ですか。
事務局	これは、どうでしょうか。もともとここにあったものでは、確かにな いです。
平澤オブザーバー	私が言っているのは、ここのところを取ってしまっ、ここは困らないのですか。
事務局	猿面茶席にあるものは、参考資料です。

平澤オブザーバー	参考資料ですか。
事務局	今やりたいといったのは、分解されているものです。
平澤オブザーバー	こっちのばらばらになっているものですか。
事務局	そうです。
丸山座長	いいのではないですか。謂れをしっかり資料に残しておいて、そういうところで設置しましたと。一つは新造かもしれないです。 こういうのは民間から、お寺も含めて寄贈されたら、あちこちに置けます。ただほど高いものはないと言いますが。 前石の件は、全部ありますので、野村さんとまた相談していただいて。今ならたくさんあるから。 そのしたら、事務局へお返しします。
事務局	今の燈籠のことですが、次の全体整備検討会議へ持っていったいいか、悪いかのご判定だけいただきたいです。
丸山座長	持っていったらいいんじゃないですか。
事務局	よろしいですかね。部会として、ご承認されたということで。
丸山座長	二之丸庭園で燈籠は、新造するのは難しい。謂われのある燈籠であれば歴史的な背景があるということで、頂戴したものを設置するということで、いいんじゃないですか。 そのようなこと文句の言う人はいますか。
事務局	わかりました。
白根オブザーバー	1点だけ、わからないところがあります。燈籠の2が宗睦で、燈籠の3が綱誠のというのは、これは何か記録上のそういう配置なのですか。
事務局	記録上ではなくて、燈籠の概略の大きさで、絵図の描かれ方によって、燈籠2のほうがやや小さく描かれています。御城御庭絵図や尾二ノ丸之絵図上で、そういうふうに描かれています。今回、想定に近い大きさの寄付燈籠があるということで、必ずしもこの並びであったということではないです。
白根オブザーバー	そうなのですね。
平澤オブザーバー	3ページにあるみたいな燈籠が、城内にほかにもあるのですか。
事務局	城内には、今の猿面茶席の、写真2-2が、光友の法名があったものです。
平澤オブザーバー	それも何か由緒があるものですか。

事務局	2代藩主光友の法名が書いてありました。
平澤オブザーバー	2-9や2-10のような状態のものは、この2基しかないわけですね。
事務局	はい、今はありません。
平澤オブザーバー	まず、手持ちで決めていくというか、決めるのは語弊があるかもしれませんが、その2つを、まずここに据えてみる感じですね。
事務局	そうです。
丸山座長	これは尽力していただいて、この2つは、寄贈してもらったのですよね。
平澤オブザーバー	これは、そうなのですか。
野村オブザーバー	多分、この燈籠の類は、建中寺を移転したときに出てきたものだと思います。 実は、万博をやっているときに、大量にそれが保管されているところがあったのですが、今は処分してしまったみたいですけど。その移転した業者が持っていたのが、猿面茶席のところにあったものがそれだと思います。要するに、お墓の燈籠ですね。 光友さんは、庭に縁が深い方ですから、多分それを選んでそれを立てたと思います。一度、院号を調べてくれと言ったら、そうだったので。藩主に縁があるということで、それで価値があると思います。 形というよりは、そういったものを入れるのは、それはそれでいいと思います。 松尾家の家元にも、東照宮が移転したときに関わったみたいで、燈籠を1基いただいた経緯がありました。今は松尾家そのものが移転してしまったので、それが残っているかどうか分かりません。そういうようなかたちで、名古屋市内にいくつか、そういう由緒ある燈籠を立てた経緯があります。 そういう意味では、この燈籠が、院号がはっきりわかっていて、どなたかということがわかっているわけですから、価値はあると思います。個人的には、それで、いいのではないかと思います。
白根オブザーバー	今回の2点は、誰からの寄進とか、読めるのですか。誰からの寄進か、尊前ところは読めるのですか。
事務局	すいません、詳しくはわかりません。
白根オブザーバー	藩主が亡くなると、重臣をはじめいろいろな人が寄進します。 今、野村先生が言われたように、誰が寄進したのかわかると、その価値が高まると思いました。もし、これで復元されるときに、もしわかれれば説明とかをするときにどうかと思いました。
丸山座長	一応、燈籠の専門家に聞いたのですよね。

白根オブザーバー	そうなのですか。
丸山座長	京都の専門家ならいいのではないかと。二之丸庭園には、何でもかんでももらうのではなくて。 石材バンクを作ってくれって言っていますが、なかなか決まらないので。ほかにも、屋敷をマンションに替えたりするときに、全部売り払っています。売り払っても売れないです。売れないと碎石になっている。そういうものを、名古屋市は、文化財的な価値があれば引き取ります、ってということが世間に流布すれば、もっと高価なものが集まるのでは。
仲副座長	まだ、東御庭でもたくさんいりますからね。
丸山座長	そう、たくさんいります。藩主は寄贈されて、それがいっぱい。どこでもそうです。多すぎて大変かもしれないですが、明治期に全部売り払われています。名勝庭園に、そういうものを寄贈したら、子々孫々にも残りますよ、という働きかけがあればね。
平澤オブザーバー	それよりも、処分代が浮きますよ、のほうがいいのではないですか。処分するのに、ものすごいお金がかかりますから。
丸山座長	今度できたら、それこそマスコミに取材してもらって、燈籠を寄贈してもらえれば、できますよって。
仲副座長	2と3は決まっていて、1は先生、腹案があるのですか。1の候補は。
丸山座長	1は作るんです。
仲副座長	作るのですか。
平澤オブザーバー	業者さんのところにあるものから引っ張ってくるのです。
事務局	1については、また候補をお諮りします。
仲副座長	古材を候補とするのですか。
平澤オブザーバー	業者さんのところにあるものを、2-4とか2-5とか、5尺くらいのものを候補としています。
事務局	座長、円滑な進行をありがとうございました。本日の議事は以上になります。最後に、オブザーバーの方々、何かありましたらコメントをいただければと思います。
野村オブザーバー	特には、ないです。
白根オブザーバー	大丈夫です。
原田オブザーバー	大丈夫です。

事務局	本日予定していた内容は以上になります。熱心にご議論いただき、多くの貴重なご意見をいただき、感謝を申し上げます。以上をもちまして、本日の庭園部会を終了します。ありがとうございました。
-----	---